

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月13日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26370358

研究課題名(和文) 『ロランの歌』の電子校訂(PTL写本)とデータベース(OPTL写本)の構築

研究課題名(英文) Electronic edition of Chanson de Roland (ms. PTL) and construction of Roland database (ms. OPTL)

研究代表者

小栗栖 等 (Ogurusu, Hitoshi)

名古屋大学・人文学研究科・教授

研究者番号：60283941

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：2019年3月末日に、『ロランの歌』のパリ写本、リヨン写本、ケンブリッジ写本の校訂作業を終了した。とはいえ、当初の予定通り、すべての写本の校訂本を公開するには至っていない。目下、校正作業を進めており、順次、WEB上にPDF書籍として順次公開する予定である。

他方で、上記3写本とオックスフォード本のテキストを組み込んだソフトウェア Joyeuseを始め、電子校訂にまつわる電子辞書やソフトウェアはすでにWEB上公開済みである。それらの中には、海外の研究者からも高い評価を受けているものもある。また、校訂作業に際して、明らかになった様々な事実を海外雑誌への投稿論文として現在とりまとめ中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『ロランの歌』には複数の刊行本が存在するが、全写本を均一な基準で校訂した刊行本は存在しない。本研究により、主な7つの写本のうち、4写本が、一人の研究者により、厳密に統一された基準をもって、校訂されたことになる。しかも、PDFと電子テキストの形で無料提供されるため、今後の作品研究において大きな影響力を持つことになるだろう。

また、校訂作業の過程で作成された電子辞書やソフトウェアの多くを、WEB上に無料公開したが、その一部は、フランスの研究機関、教育機関においても、利用や紹介がなされている。また、研究期間中に海外の権威ある雑誌に論文と書評の各一本が掲載されたことも本研究の学術的意味を示している。

研究成果の概要(英文)：I have finished the work of edition of three manuscripts (i.e. those of Paris, Lyon, Cambridge). But the pdf books of the editions, which will be published on WEB, are still in preparation, because the proofreading is not yet accomplished.

On the other hand we have already published a software Joyeuse which facilitate handling of the texts of Paris, Lyon, Cambridge and Oxford. Several electronic tools (electronic dictionaries, softwares), developed during my editorial work, are also available on my WEB site. Some of those are appreciated even in France. I am preparing also some articles in which the discoveries I made on the edited texts will be discussed. The articles will be submitted to a foreign journal.

研究分野：中世フランス語フランス文学

キーワード：武勲詩 電子校訂 写本 電子テキスト 電子ツール シャルルマーニュ 中世 ロンスヴォー

1. 研究開始当初の背景

『ロランの歌』の全写本を一望できるような校訂本を作成しようとする試みは、20世紀初頭にさかのぼる。しかし、そうした試みは限定的な成果しかあげることができなかった。すなわち、1900年発行のStengelの校訂本は、O本の「誤り」を修正すべく、諸写本が提供する異文を多数収録したが、それらの異文は、校訂テキスト内の詩行に対応させるために、断片化されている。したがって、O本以外の写本のテキストを通読することはかなわない。Segreが1971年に刊行した校訂本にも、大量の異文が収録されているが、O本の祖本(仮想された)

本と他の写本の祖本(同様に仮想された)本の再構築に寄与しない異文はすべて省かれているうえに、各異文は断片化されており、O本以外の写本を通読することは不可能である。一方、Foersterは、1883年にはC,V7本を、1886年にはP,T,L本を、全詩行にわたって校訂したが、この古い校訂本は、『ロランの歌』諸写本の全貌を提示しようとする姿勢を欠いている以外に、三つの重大な欠点を有している。すなわち、第一に、一部の写本については、写本そのものや写真版ではなく、図書館職員による筆写にもとづいて校訂が行われたこと。第二に、校訂テキストはディプロマティック版と呼ばれるものであり、句読点や大文字小文字の区別、u-v,i-jの区別などが無いこと。第三に、各写本のテキストは、通読が不可能ではないにしても困難なやり方で組版されている上に、通しの詩行番号が付されていないこと、である。

Mortierが1940年から44年にかけて刊行した校訂本は、Foersterの校訂本を再構築し、上記の欠点を部分的には解決した。しかし、残念ながら、ほとんどの場合、校訂作業は、Foersterの校訂本に基づいて行われ、写本に立ち返ってのテキストのチェックは行われなかった。のみならず、不適切な句読点・略号解釈、多数の誤植等、数々の細かな問題もあり、Mortierが必ずしも信頼のおける校訂本を提供していないことは、多くの研究者が認めることである。そのような状況下において、Dugganをgeneral editorとして、2005年に刊行されたLa Chanson de Roland/The Song of Roland: the French Corpusが、研究者たちに大きな期待を抱かせたのは当然のことであった。しかし、この大著も、学問的要求に十全に応え得るものではなかった。当該プロジェクトで、各写本を担当したのが、優秀かつまじめな研究者だということは論をまたない。しかし、彼らの仕事を統括し、一つの方向に向けて収斂させようという試みは、ほとんどなされていない。たしかに、書籍としてのフォーマットは、各校訂本で統一されているが、中身は実のところバラバラなのである。C本のテキストは写本の読みをそのまま再現したものに過ぎないのに対して、V7本の校訂では、C本とV7本の祖本の再構築が試みられている。一方で、P-T-L本が、(V7本とC本がそうであるように)、共通する祖本をもつにも拘らず、その祖本は再構築されず、各写本のテキストのあるべき姿が、独立して、再構築されている。O本にいたっては、校訂者の恣意にまかせた修正が満載されている。しかも、各写本の詩行の対応は、かなりの部分がMortierの労作により明らかになっているにも拘らず、彼らの校訂本では、写本間の対応は詩節単位でしか示されない。固有名索引は写本ごとに分割されており、ある写本の、とある人名が他の写本でどう表記されているかを知る簡単な方法は提供されていない。難解語彙集(glossaire)にいたっては、写本ごとにばらばらなうえに、内容が極端に貧弱である。Dugganは、V4本の校訂者としては、自らの職分を十分に全うしたかも知れないが、general editorとしての彼の仕事は、凡庸だったと言わざるを得ない。さて、以上の問題点が、そのまま、本研究課題において、解決すべき問題であった。

2. 研究の目的

『ロランの歌』には、断片を除いて、7種の写本がある。すなわち、Oxford本(略号O本)、VeneziaIV写本(V4本)、Châteauroux写本(C本)、VeneziaVII写本(V7本)、Paris写本(P本)、Cambridge写本(T本)、Lyon写本(L本)である。研究代表者は、2009年4月1日～2013年3月31日の科研費研究課題、「『ロランの歌』データベースの構築と電子校訂法の確立」で、最古の写本、O本を、校訂・データベース化し、それをPDF書籍と電子テキストの形にまとめたうえで、WEB上に公開した。本研究課題は、その延長線上にある。すなわち、P本、T本、L本を校訂し、O本のデータベースと合体させようというものである。さらに、本研究課題は残るV4本、C本、V7本と校訂とデータベース化によって果たされる、真の意味での「『ロランの歌』データベース構築」の一部をなしてもいる。

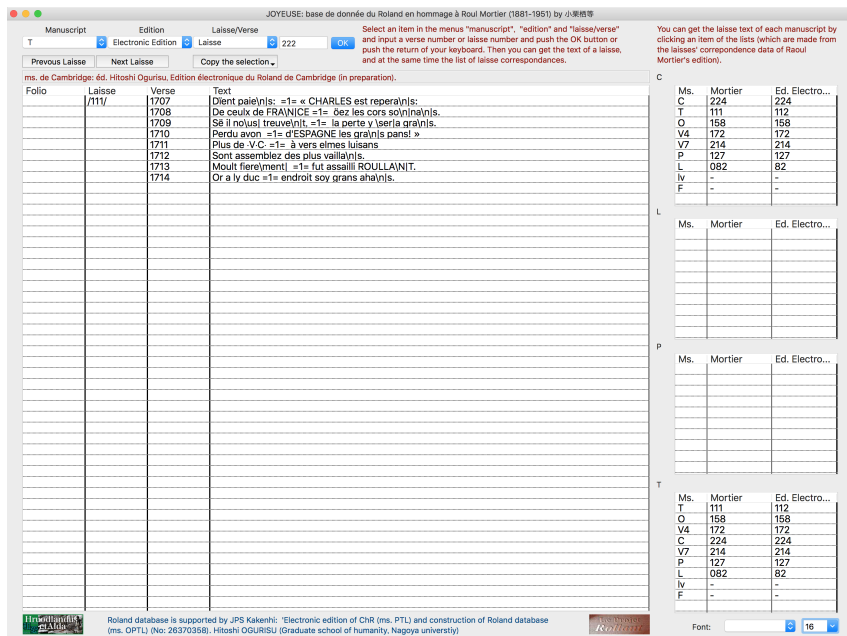
3. 研究の方法

フランス最古の叙事詩、『ロランの歌』のParis写本、Cambridge写本、Lyon写本を校訂して、データベース化し、すでに作成したOxford本のデータベース(2009-13年、科研費研究課題)に組み込む。当該データベースでは、各写本内を検索したり、四写本の対応詩行を自在に行き来できるだけでなく、過去の研究成果をも参照できるようにする。テキスト校訂に際しては、Oxford本校訂時に確立した電子校訂法に基づき、コンピュータを最大限に利用し、電子辞書、写本閲覧ソフト等の様々なツールを開発する。作成したデータベース及び電子ツール類は、基本的に、すべてWEB上に無料公開する。さらに、関連する論文を執筆し、積極的に欧文雑誌に投稿して、研究内容や成果を世界に発信する。校訂本そのものは、WEB上で無料公開するため、

査読論文こそが、校訂テキストの学術的価値を保証することになる。

4. 研究成果

三写本の校訂作業は終了したが、校訂本 PDF の公開を研究期間内に行うことはできなかった。ただし、校訂テキストそのものは、ソフトウェア Joyeuse の中に組み込み、公開済みである (<http://www.eonet.ne.jp/~ogurisu/francais/sect0003.html>)。これは、オックスフォード本のテキストを含め、写本間の比較対照を容易におこなえる仕組みを備えたテキスト閲覧ソフトウェアであり、これにより、一つの写本の任意の詩行や詩節に対応する、他の写本の詩行や詩節を容易に呼び出すことができる。Windows 版と Mac 版を準備することで、より多くの研究者が利用できるよう配慮もした（下図参照）。



また、研究期間中は進行する校訂作業の過程で明らかになった事実を、毎年欠かさず、国際中世叙事詩学会日本支部研究報告会で行った。さらに、研究代表者の研究の価値が認められ、シンポジウムに招聘され、二度の講演を行った。また、セミナーでの講師も務めた。テキスト校訂は膨大な手間と時間がかかる作業であるため、三写本を五年で校訂するというのは、大変な難事業である（目下校正中の pdf 書類は A4, 1900 頁あまりに及ぶ）。そのため、研究期間内に発表した雑誌論文はわずかであるが、すべてフランス語で書かれており、うち二本はドイツの権威ある専門雑誌『ロマンス語文献雑誌』(*Zeitschrift für romanische philologie*)に掲載された。また、PDF 書籍として WEB 公開した『TCAF4 (古仏語動詞活用表)』（岡田真知夫・小栗栖等共著）は国内外に多くの利用者があるだけでなく、フランスの公的研究組織 ATILF の『中期フランス語辞典』（<http://www.atilf.fr/dmf/>）にも、補助機能として組み込まれた。また、フランス文部省(Ministère de l'éducation nationale, de l'enseignement supérieure et de la recherche)の教員向けパンフレット(éduscol)にも紹介された。さらに、校訂作業の過程で作成・開発した辞書やソフトウェア（コンピューター用、タブレット用）の多くを WEB 上に公開したが、それらは、国内外の研究者に利用されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

1. 査読あり Hitoshi Ogurisu, Le compte rendu du livre Marjorie Moffat, 《The Châteauroux version of the Chanson de Roland》, *Zeitschrift für romanische philologie*, De Gruyter, 132 号、第 3 分冊 824-855 頁, 2016 年
 2. 査読あり Hitoshi Ogurisu, De nouveau sur le texte du *Roland* d'Oxford, *Zeitschrift für romanische Philologie*, De Gruyter 第 130 号-第 1 分冊 23-45 頁, 2014 年
- Amis et Amiles: texte et commentaires, 和歌山大学教育学部紀要-人文科学- 第 65 号 5-24 頁, 2014 年

〔学会発表〕(計 9 件)

1. 小栗栖等、「中世フランス文献学の仕事」, 日本フランス語フランス文学会中部支部大会(於名古屋大学), 2018年11月8日
2. 招待講演、小栗栖等、「Anglo-Norman 語の「武勲詩」における「異教徒」=「サラセン人」から見る「世界」観 とその広がり」, 日本中世英語英文学会第34回東支部研究発表会・第34回西支部例会(合同開催)、シンポジウム: 中世文献から見える「世界」と「世界の広がり」- WHERE the east meets the west- (於三重県勤労者福祉会館), 2018年6月16日
3. 小栗栖等、「武勲詩概説」, 日本中世英語英文学会西支部主催セミナー (於三重県勤労者福祉会館), 2018年6月16日
4. 小栗栖等、「『ロランの歌』P/T 写本のテキストについて」国際中世叙事詩学会日本支部研究報告会(於亜細亜大学), 2018年6月1日
5. 小栗栖等、「『ロランの歌』のテキストについて」, 国際中世叙事詩学会日本支部研究報告会(於亜細亜大学), 2017年6月3日
6. 小栗栖等、「リヨン写本『ロラン』のテキスト」, 国際中世叙事詩学会日本支部研究報告会(於亜細亜大学), 2016年5月27日
7. 「小栗栖等、オックスフォード本『ロランの歌』のテキスト:いくつかの修正について(2)」, 国際中世叙事詩学会日本支部研究報告会(於成城大学), 2015年5月29日
8. 招待講演、小栗栖等、「印刷本と電子校訂」, 国際アーサー王学会日本支部2014年度年次大会 第1部: シンポジウム「書物の過去と未来」(於龍谷大学大宮学舎南翼203教室), 2014年12月13日
9. 小栗栖等、「オックスフォード本『ロランの歌』のテキスト:いくつかの修正について」, 国際中世叙事詩学会日本支部研究報告会(於成城大学), 2014年5月23日

〔図書〕(計 1 件)

1. 『TCAF4 (古仏語動詞活用表)』, 岡田真知夫・小栗栖等著, 2015年, 全264頁, WEB公開, <http://www.eonet.ne.jp/~ogurisu/japonais/sect0012.html#tcafjp>

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

Hruodlandus et Alda (<http://www.eonet.ne.jp/~ogurisu/>).

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。